



スポーツキャスターまでの道

◇今回は、各務梓菜さん（早稲田大人間科学部卒・スポーツキャスター）のレポートです！

1. はじめに

みなさん、こんにちは。2011年に関高校を卒業した、各務梓菜といます。私はいまNHK静岡放送局でスポーツキャスターとして働いています。

「将来の夢がなかなか見つからない・・・」「自分の就きたい職業に本当に就けるのか」。

高校・大学時代は私も不安で仕方がなかった時期がありました。そんな私が一步一步進めた理由を、少しでも皆さんの力になればという思いを込めて、語らせていただこうと思います。



周りに伝える

将来の夢が“アナウンサー”になったのは、高校2年生くらいだったと思います。偶然入部した放送部で“朗読”を経験してから、「自分の声を通して言葉や思いが伝わる楽しさ」を知りました。それまでは、勉強も部活動も習い事も秀でたものがなく、「好きなこと」も特にありませんでした。“朗読”はそんな私に楽しさを教えてくれ、さらに自分にも「できることがある」と初めて自信を持たせてくれたものでした。

自分の心を動かしてくれたものに「こんな出会いは一生ない！」と感じ、「アナウンサーになるんだ！」と決めました。それからは親、友達、学校の先生だけでなく、塾でも、壁に貼る目標には「アナウンサーになりました！」と過去形で書いてしまうくらい・・・公言していました。どれだけ就ける確立が低くても無理だと思われても、周りに堂々と言えないようでは叶えられないと考えていたからだと思います。

こうして言葉にして伝えたことで、私はいろんな方から助けてもらえたのではないかと感じています。関高の先生は夢を叶えるにはどこの大学に行くのがいいか道を示してくださいましたし、友人たちは落ち続けたアナウンサー試験中もずっと私を信じて応援してくれました。

自分のことを話すのは勇気がいりますし、最後に行動に移すのは自分です。ただ、周りの支えがあったからこそ夢に一步一步近づくことができたと思っています。皆さんも是非周りに話してみしてほしいです。

最後までやり抜く

就職活動はアナウンサーだけに絞っていました。練習で他の企業を受けるという考えはなく、保険も

何もかけなくなかったんです。そんな頑固な私は、周りの友人が大学4年の春にはほとんど就職が決まる中、大学3年の夏から始まった就職活動が大学4年の卒業間際1月までかかりました。キー局と呼ばれる東京の放送局はもちろん、地方の放送局も北海道から九州まで受けました。もし受からなかったら海外に留学に行けばいい。それくらい腹をくくっていました。

なぜここまでやり抜けたのか。それは、「自分にはこの職業しかない」と心の底から思えたからです。自分の実力も人間性もどんな風に評価されるか自信はないけど、伝える言葉の魅力を感じた自分に嘘はありませんでした。こうした思いはいつか必ず届く。最後までやり抜いた先にそんな経験ができました。

最後に

私は今、スポーツキャスターとして、オリンピックメダリストやプロの選手たち、夢を追いかける若い選手など、様々な方と出会い、取材をして、生放送で伝える仕事をしています。日々自分自身と戦っているアスリート達からはスポーツの魅力はもちろん、人としての学びが多く、刺激的な毎日を過ごしています。

私は正社員ではなく、フリーのキャスターです。

一生の雇用が約束された立場ではありません。

ただ、なんとなく入った企業の正社員よりも自分のやりたいことができる毎日を選んで良かったと心から思っています。

今後は選手たちから「各務さんだから話せた」と言ってもらえるような関係を築いていきたいですし、放送を見てくださった方には「明日からも頑張ろう」と思ってもらえるような企画を作っていきたいと考えています。

皆さんが自分の道を歩んでいけることを心から願っています。

私も、自分の道を歩んでいきたいと思います。



※今回、都合により写真を貼ることができず、
文章のみとなってしまいました・・・

NHK 静岡放送局のブログでは仕事の内容や選手たちとの写真も
アップしていますので、よろしければ是非ご覧ください！

<https://www.nhk.or.jp/shizuoka-ana-blog/290/>